

テキスト

ブログ作文技術(3)

第3章 読者を一目で惹きつける

Q 06 題名・冒頭文では、なにに注意して書くの？

(022) 題名、冒頭文はテキストの第一印象

「初めての人に会うとき、第一印象に気をつけないと！」

よく思い、よくいわれることです。テキストでも同じなんですよ。むしろ、人としての第一印象に比べ、テキストの第一印象の方がより重要度が高いといえるでしょう。

それはいったいどうしてでしょうか？

もし人と初めて出会うときなら、第一印象が少々悪くても、後々挽回は効くかもしれません。しかし、「非」人間であるテキストの場合、読むことすら拒否されます。出会いがしら「さよなら」……下手したら永遠の別れを告げられます。

これでは、自分が苦勞して生み出したテキストたちは、恋人・親友はもちろん、知り合いだってできやしません。

あなたの書いたコラムを読んでもらうためには、書き出しの工夫は必須！「冒頭の文は他のどの部分よりも工夫した方がいい」といっても過言ではありません。逆にいえば、書き出しさえ工夫すれば、あなたのコラムは読んでもらえるチャンスが大幅にアップします！

(023) 自分が書くにしても出だしが肝心！

スタートダッシュがよければ、少々スピードが落ちても切り抜けられる。つまり、出だしの冒頭文、書き出しさえよければ、テキストを書ききることができます。

書き出しがよければ、少なくとも書いている間は不思議と「自分のテキストは面白い」と思って書けちゃいます。ほんとに、不思議と。逆に、書き出しが悪ければ、「このテキスト……面白くない」と、次第に筆がすずまくなってしまいます。エッセイ・コラム・記事を書いている、あなた自身を乗せるためにも、出だしは肝心ですよ！

(024) 冒頭文は、印象的で短く

書き出しを考えるときの基本がこれです！

「印象的で、強烈な短い文！」

とくに、短くすることに重点を置くと、うまくいきます。「短い」、ただそれだけで印象的なので。たとえば、こんな書き出し……

「えっ……

私はそのとき、何がなんだかさっぱりわからなかった。」

書き出しは、「えっ……」ですが、印象的ですね。少し読んでみたくなってしまう。短くすることにより、内容を多く語っていないところも、実はポイント。ほのめかされ、焦らされることによって、読者はさらに読みたくなります。

有名な書き出しでは、

「こんな夢を見た」(『夢十夜』夏目漱石)

「メロスが激怒した」(『走れメロス』太宰治)

書き出しは印象的で短くして「ほのめかす！」これで、考えてみてください！

(025) 題名から続く冒頭文でのオウム返しは避ける

あなたが小見出し・題名をテキストにつけるとします。そのときはぜひ、次のことに注意してください。それは、「題名に続く冒頭一行目でのオウム返し」。

オウム返しとは、同じようなことを繰り返すこと。たとえば、

(例) 「ハウルの動く城」レビュー

本日「ハウルの動く城」を見てきました。その感想を書きたいと思います……

こう書いてしまうと、「予想を裏切る」という面白みもなく、また、くだくなってしまうことも手伝って、読者は出だしから読む気を削がれてしまいます。オウム返しは、題名の存在する意味を薄くしてしまいます。こうなってしまうたら、思い切って「題名をつけずに、冒頭文で勝負！」というのもアリですね。

例外として、「わざとオウム返しをする」という方法もあります。同じことを2回繰り返すオウム返しは、テキストの初めに、最も読者の視線を集めます。

たとえば、書く内容がそれだけで魅力的なネタならとても効果的でしょう。ニュースサイトのテキストにはうってつけかもしれませんね！

Q 07 題名は、どうやって付ければいいのか？

(026) 題名は、本文を「一言・一文」で表せ

2つの基本

題名のつけかたの基本は、2つです。

1 つ目は、「テキストの内容を要約する」。題名を読んだ読者に、「このテキストは、このことについて書かれています」と「わからせる」のですね。

2 つ目はというと、「短い題名にする」。一言、無理なら一文。とにかく短くするというイメージでいいでしょう。題名を短くすれば、スッと読者の目に入ってきます。短いことで、読者に与えるインパクトも違いますよ。

また題名を短くすることには、もう1つの効能があります。実際、短い題名を考えてみるとわかるのですが、そこには多くの内容を含めません。それがねらい。あまりに短くしすぎて、意味がわからない題名は問題ですが、内容を多く含まない題名は、自然と読者をじらす結果になります。ほのめかしの効果ですね。

題名を使って読者に「なんだろう？」と「ほのめかす」のも大事なことです。テキストに読者を惹きつけるという面で。

まとめ

読者からすれば、「題名を読んで、何が書かれているのかわからなければ話にならない」でしょうし、書き手からすれば「題名によって、読者をテキスト本文へとひきこみたい」のは当然のことです。この「わからせる」と「ほのめかす」のバランスについては、次節(027)で述べたいと思います。

基本は「要約して短くつける！」でいきましょう。

(027) 題名は「わからせる」と「ほのめかす」のバランス

どちらに重きを置くか

(026)で2つの基本を述べました。そこには相反する2つのポイントが存在しています。「わからせる」と「ほのめかす」。このバランスが題名を考える上でのキーなんですね。

一概に、このバランスで考えればいいだろう…… という基準はありません。テキストの内容・種類によってバランスを変えていく必要があるでしょう。

たとえば、ニュースのような出来事・事件を読者に伝えるテキストなら「わからせる」に特化した題名がいいですね。

「震度6強の地震、新潟中越を襲う」

テキスト本文には地震による町の状況、国の対応などが続きます。

同じ地震について書くにしても、ドキュメントタッチのテキストなら「ほのめかす」ことに、もう少し重点を置きます。

「新潟中越地震で生まれた絆」

本文は、自分の家族の絆であったり、助け合う地域住民の絆の話であったり…… 「どんな絆が生まれたんだろう」と、少し読者を焦らします。

エッセイの色が濃いコラムなら、さらに「ほのめかす」に傾いた題名でもいいかもしれません。

「地震と写真と修羅場の幕開け」

いったい何の写真なのか？ それが地震と何の関係があって、どう修羅場が始まったのか？ わかるようでサッパリわかりません。エッセイで、ここまで「ほのめかす」が強いと、少し読んでみたくなってしまう。

バランスの取り方

次に示す表は、私がコラムの系統別に考えた、効果的なバランスです。

「わからせる」	→	「ほのめかす」
「ニュース」		「エッセイ・日記系」
「ノウハウ本」		「映画・書物批評系」
「今話題になっている出来事」		「個人的な事件・事柄」
「ネタで勝負するテキスト」		「文体で勝負するテキスト」

この表はあくまで目安です。決してニュース系テキスト等が「ほのめかしてはいけない」ということではありません。その逆もしかし。あくまで参考ということにしてくださいね。

まとめ

本文を短く要約し、「わからせる」と「ほのめかす」のバランスを考えて、題名をつけてやりましょう！！

(028) 副題をつけて興味をひく

題名をつけるときは、「わからせる」と「ほのめかす」のバランスを考えるといいました。その調整に使えるのが、この「副題」。

題名が具体的で「わからせる」度合いが強いものでも、副題によって「ほのめかす」ことができるし、その逆でも使えます。

たとえば

- ・「コラテラル」映画批評
～「トム・クルーズ主演」という看板以上に勝負できるストーリーの面白さ！～
- ・いろいろなところに見るお隣さん
～「結婚」のとなりは「血痕」！？～

また、抽象的なことをテーマとして書くときにも、副題はいい味を出します。

- ・友情の話
～ずぶ濡れで戸口に立ち待っていた男～
- ・愛情の話
～買い物かごが1つになったとき～

さらに副題は、題名とまったく関係のなさそうなものを組み合わせ、読者に疑問をもたせることもできます。読者の頭に「？」を浮かび上がると、読んでもらえる確率がグンとアップします。「と」を使って並列させるのはかなり効果的。

- ・ 私が元彼とは復縁できない理由“と”おかま
- ・ 宝くじ“と”ハトの糞

副題、ぜひ使ってみてください！！

Q 08 冒頭文で、どうやって読者を惹きつけるの？

(029) 音で書き出す

とても使いやすい書き出しです。音で書き出すと、文字であるのに、読者に耳から訴えかけることができます。この音の想像から、読者は情景を、フッと頭に浮かべることができる。エピソードを語るときなどで、読む者を本文の中へ引き込むのに、とても効果的ですね。では、さっそく例をあげてみましょう。

- ・ カーン……。
私が歌い終えた後、会場には、この音だけが、寂しく響きわたった。
(「のど自慢」ですかね)
- ・ ミーンミンミンミン……。
暑い、暑すぎる。今日も受験勉強がすすむはずもなく、私は……
(とりあえず、苦しそうです)

- ・ ンゴ、ゴガガガー。
寝ているときだけは、愛する夫にも私は殺意を抱く...
(パートナー選びには、注意しましょう)

擬音語、擬声語、擬態語、何でもいいですね。物事の様子をそれらしく表す擬態語で、オリジナルの“音”を作り書き出すのも楽しそうです。

- ・ グンヤ...
- 私の彼女は、笑えばこんな音が聞こえてきそうな顔をする。

音で始める書き出し、楽しいのでぜひお試しあれ！

(030) 会話で書き出す

「音で書き出す」で紹介したイビキの例もこれに少し近いですね。

会話で書き出されたテキストも、先ほどの「音」と同じで、読者に耳から訴えかける書き出し。同じ効果が期待できます。読者としては、非常に興味をそそられます。では、例。

- ・ 「お一人ですか？」
飲食店店員のこの言葉に、私は少なからず傷ついている。本当に一人だからしょうがないのだが..... 女として「お連れ様はいらっしゃいますか？」と聞いてほしい。
それはまるで、「彼氏いますか？」と聞かれるのではなく、「当然、彼氏いませんよね？」って聞かれているみたいで.....
(長い例文..... すいません。筆がすすみすぎました(泣))
- ・ 「俺じゃ、だめかか？」
一瞬私は、自分の耳を疑った。あの時の、この言葉から二人は始まった。
(どうやら幸せそうな..... この後の文章はどうなるんでしょうか?)
- ・ 「私じゃ、だめなの!？」
閉まっていくドアにさえぎられ、あの人の背中に、この言葉は届かなかった。
(ううう..... 悲しそうな話です)

会話で書き出すと、冒頭からいきなり生きた情景を作り出すことができます。ぜひ、試みてください。

(031) ものの動きで書き出す

書き出して生きた情景を作り出すことができると、冒頭からいきなりその場面に読者を引き込むことができます。今まで紹介した書き出しの方法も、生きた情景を冒頭で作る作戦です。では、他に生きた情景を、書き出しで作り出す方法はないか？

それは、ものの動きで書き出す方法です。例をあげてみましょう！

- ・ 夕刻どき、歩いていると、その車はゆっくり、ゆっくりと近づいてきた。スモークのかかった窓が、スーッと開いて、中にいる男が私に告げる。
「おい.....」
(何やら怖い雰囲気)
- ・ フタを開けると、鍋から..... モアモア..... 煙があふれ出る。
また失敗..... どうしても私は料理ができない。前だって.....
(耳が痛い例文です)
- ・ 何かが私に飛んできた。
それが何かわかったときには、もう遅かった。気づいたとき、私の頭には飛んできた物体と同じ大きさのコブが.....

(あの時は痛かった)

ものの動きで書き出す、楽しいテクニックですよ！

(032) 「何かヤバイ？」と思わせる書き出し

冒頭で読者の意表をつくことができると、いっきにテキストの中へ引き込むことができます。その方法の1つがこれです。読者に「何か、やばい？」と思わせる書き出し。

いい換えると、危険な状況であることを書き出しで匂わせるんです。普通じゃない状況で、読者の注意をひく方法。(030)の3番目の例や、(031)の例がそれです。参考にしてみてください！！

ここでも例を紹介していきましょう。

- ・ 前のトラックが、どうもフラフラしているなと思っていた。
そんな矢先…… ドーン。私は自分の目を疑った。
(トラックがどうなったんでしょう)
- ・ あの、ゲーで殴っていいですか？
本日、こともあろうに私の彼氏様にこんなことを言われました。
「整形してよ」
な、なんですと！？
「プチでいいからさ」
握った拳を私は……
(殴っていいですよね？)
- ・ ピチャ…… ピチャ…… 人がついてくる？
去年の話だ。雨上がりの深夜、自宅へと歩を進めていたときのこと。
(去年何があったんでしょうかね？)

読者に「何か大変なことが起こっているの？」と思わせるような書き出し。考えてみる価値ありですよ！ぜひ試してみてください！

(033) 「ほのめかし」で書き出す

「え？なにになに？」と読者に思わせる書き出しです。「これから書くことはすごいんですよ」と読者の興味をかきたてるように書き出す方法。

「ほのめかし」という言葉は、この章のいたるところで使っています。書き出しは、ほのめかし程度がいい……等々。それを全面に出して、思わせぶりに書き出しちゃってください。

それでは、例の紹介。

- ・ 夫にこんな癖があったなんて……
おととい、日曜日の話です。私が帰ってくるなり、主人がどーも怪しいそぶりを見せていました……
何かを隠すような……
(伴侶選びは慎重に……)
- ・ もし、10年前の出来事がもう一度私にふりかかるとしたら……
電気のついていない部屋、そこに力無くたたずむ彼。
こんなに時間がたったのに今も忘れられない。そう、それほどまでに私の胸の奥深くに、あの出来事は刻まれました。
(10年前に何が？)

ぜひ皆さんも「ほのめかし」を意識して書き出してみてください。

(034) 本編と違う時制で書き出す

意外性が観客を引き込む

この方法は、映画でもよく使われますね。意外性を出すテクニックとして。

たとえば窪塚洋介主演の映画「ピンポン」。

冒頭のシーン。警察官と一言二言交わし、いきなり、ペコ(窪塚)が橋から川へ飛び込みます。そのシーンが終わると、舞台は、おばば(夏木マリ)運営する卓球場へと移り、映画は時間通りに進行していきます。

！？と映画の世界に引き込まれるプロローグ。映画を見ていただくと解るのですが、ペコが飛び込むのは本編中盤のシーンなんです。つまり、時系列を変更して、観客を映画の中へ引き込んであるんですね。予想もしなかった始まりをされるだけで、観客は「何のことが？」と引き込まれていきます。

時間を操作して、意外性作り

前置きが長くなりました。話をテキストにもどしましょう。映画だけでなく、テキストにもこの手の方法が応用できます。本編と違う時制で書き出すという方法。

たとえば、本編が過去なら現在の時制で、本編が現在なら過去の時制で書き出します。時制が違うというだけで、意外性が出てきますね。それでは、例文をどうぞ。

- ・ 息子が、私の隣でスースー寝息をたてている。
四年前、この子が私のおなかにいたときの話だ……
(時制が現在から、過去へ飛びました。)
- ・ 昔はよく二人で、お風呂に入ったもんだ……
そんな私の娘も、いつの間にか中学生。洗濯物までわけろという始末……
(過去から現在の時制へ)

まとめ

パソコンに向かっている現在から、急に事件の起こった時間に戻ってみたり、過去の何気ない日常から突然今日の深夜に移ってみたり、やってみると楽しいですよ。

まずはテキストの中の時間を意識する。そして、その時間通り書いていくのではなく、いろいろ組み替え、楽しくテキストを編集しましょう！

(035) 一般的ではない意見で書き出す

「人の考えないような意見を書いたテキストが面白い」ということは、前にも(008)、(011)でふれました。この方法は、そんな、人の考えない意見を書くときにのみ効果のある書き出し……といいますが、そのときにしか使えません。

一般的ではない意見で書き出されたテキストも、読者の目を惹きます。それでは、例をみてください。

- ・ 大学入試はなくすべきだ！
というも……
(大学入試不要論)
- ・ 離婚っていいよ。

私は離婚して二ヶ月だけど...
(離婚のススメ)

- ・ ひきこもりが世界を救う。
たとえば、俺を見る...
(ひきこもり万歳)

注意しなければいけない点があります。それは、あまりに一般的ではない意見を書くと、ただ非常識だと思われるで終わってしまいます。気をつけください。

(036) 迷ったら普通に書き出してみる

これまで、いろいろな書き出しを紹介してきました。今まで紹介してきたものは、書き出しの中でも変則的なものばかりです。書き出しにマンネリ化したり、迷ったりしたら、ごく普通の書き出しに戻ってみるのもいいですよ！

変則的な書き出しは、確かに派手で人目を惹きます。しかし、「素直な書き出しには魅力がない」というわけではありません。ひねらない書き出しにも、それにはそれなりのよさがあるのです。たとえば、テキストの中で本当に盛り上げたい部分を際立たせることができます。

派手すぎる書き出しを使って最初に盛り上げすぎると、クライマックスとのギャップがなくなってしまい単調になりかねません。メリハリがなくなるってやつです。

単に「盛り上がったまま」でメリハリがないだけならまだしも、最初に盛り上げたまま、後は下がってってしまう... ということもありえますよね。いわゆる「竜頭蛇尾」というやつです。

たまには、普通の書き出しに戻るのも新鮮。また、いつものテキストとギャップをつけ、読者に「お？」と思わせてみてもいいですよ。おすすめします。

(037) 状況説明から書き出す

読者との共通理解があつてこそ、文章はしっかり伝わり、面白さが生まれます。

時間、場所、登場人物..... といった状況の説明から書き出します。もっともオーソドックスな書き出し。それでは、例。

- ・ 3月25日..... 大会も終わり、その夜、打ち上げの席、こんなことがあった。
私はいったん、外に連れ出され.....
- ・ 私が小学6年生だった頃、ある日の母との会話。
母「.....

といった具合です。この状況説明の書き出しは、その状況を知らない誰かに話すように書くと、うまくいきますよ！

- ・ 昨日の話んだけど、友人と下校してたのね。そしたら、

蛇足です。話し言葉と書き言葉は、確かに違いますが、話し言葉で書かれたテキストもそれはそれで味があります。参考まで。

(038) 人生訓、格言で書き出す

心配になる方もいるでしょう。「道徳的なだけのテキストは面白くないのに大丈夫？」と(010 参照)。大丈夫です。テキスト本文が道徳的に思われないよう、次の一点に注意しましょう。

「ありふれた人生訓、格言は使わない！！」

あまり知られていない格言で、かつ、「なるほど！」と読者が思うようなものを使いましょう。それさえ気をつければ、とても扱いやすい書き出しですよ。それでは例文。

- ・「今の自分を捨てずに、なるべき自分になることはできない」 - マックス・デュ・プリー(詩人) -
(変わりたいのなら、今の自分を捨てなきゃね!)と私は解釈してます。この格言は、変化を怖れる人に投げかけているものなのですが、私の場合..... 今日ほど自分を捨てたいと思ったことはありません。というのも.....

誰もが知っている人生訓をパロディ化してしまうのも一つの方法。

- ・「ジャイアンは、ジャイアンの上に人を造らず...」 - 福沢諭吉 学問のすすめパロディー
(ジャイアンの下には、スネ夫、のび太がいる...)という解釈。私の彼氏は、まさにジャイアン..... こんな彼氏なら、私でなくたってスネ夫になりたくもなります。といいますのもね、こないだの出来事。うちのジャイアン、こともあろうに.....

文章を組み立てやすい書き出しなので、ぜひ使ってみてください!

(つづく)